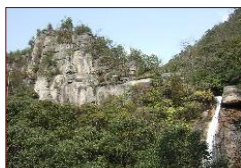
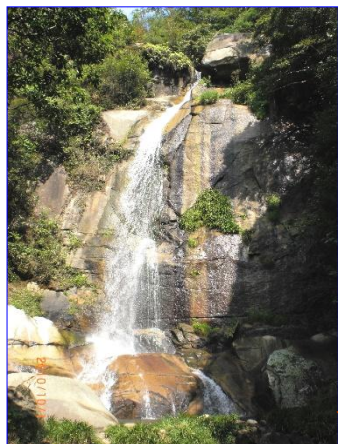


瀑雪の滝より大和町の古刹・棲真寺までの約1300mを散策。
遊歩道には、自然の景地が点在する。
古代のロマンの香りが誘う古道を歩く。



瀑雪双壁
滝隣に聳え立つ花崗岩壁を併せて
「瀑雪双壁」と称す



乱舞滝(水量で姿変化)



小滝



二連滝

1,300m(標高差230m)

瀑雪の滝は、沼田川沿い県道33号線より北約200mの近距離に有り、滝の幅約4m 高さ約30mで、滝壺は飛沫・水煙が立ち込め、涼風を呼ぶ景観である水量の多い落下の状態は、瀑雪の名にふさわしい風景である。

1561年、新高山城を訪れた毛利元就は、滝を見物した後、棲真寺で宴を催したと伝わる。(小早川家文書)



【ご案内】交通アクセス

① 瀑雪の滝駐車場			
	距離	自転車	徒歩
JR本郷駅 ～県道33	7.3km	10分	100分
本郷IC～県道33	5分		

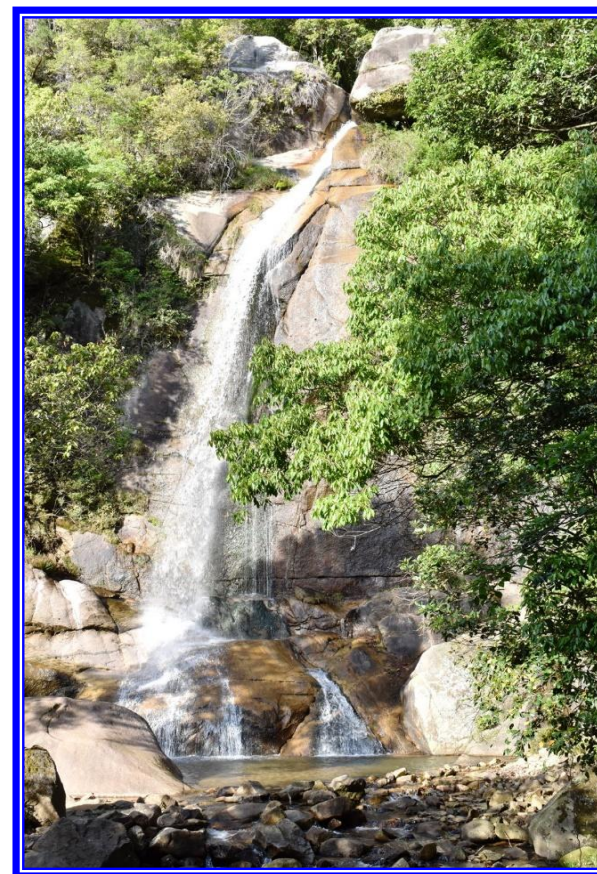
② 女王滝駐車場			
現在 災害により通行禁止			

③ 白扇の滝駐車場			
	距離	自転車	徒歩
JR本郷駅 ～県道33	7.3km	10分	100分
本郷IC～県道33～343	10分		



本郷町観光協会
広島県三原市本郷町南
5丁目26-11
TEL 0848-86-5717
平日; 9時～12時

瀑雪の滝 BAKUSETU-TAKI

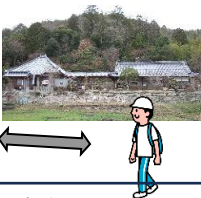


マップコード
257 098 684*24

三原市 本郷町観光協会

棲真寺

SEISHINJI

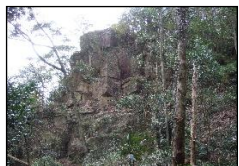


瀑雪の滝

BAKUSETU-TAKI

棲真寺はその昔、無住が20余年も続き、寺や境内が荒廃していた。寛文2年(1662)名僧・仲芳禪師住して荒廃した寺の再興に尽くした。應海山棲真寺記を編さんして寺の沿革を明かにした。また、裏山の天境峰から瀑雪の滝の間、11勝地を選んで各詩を賦し、自然をかりて天真を表した。法灯再び輝き宗風の興隆古に還る。

350年以上の年月を経た現在、下に示す8勝地と棲真寺裏山の天境峯・境内横の般若台・境内前の藍田の3勝地がある。*瀑⇄棲の道すがら各所に説明看板を設置。



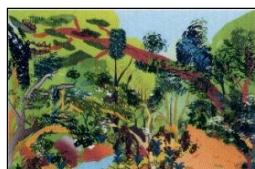
[屏風岩]びょうぶいわ



[宝陀岩]ほうだがん



[石室泉]いしむろいずみ



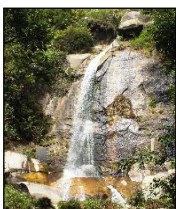
[独木橋]ひとりきばし



[座禅岩]ざぜんいわ



[一屋岩]いちおくがん



[瀑雪の滝]ばくせつのたき



[玲瓏岩]れいろうがん

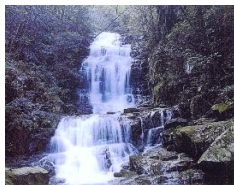


瀑雪の滝

文献「広島県の滝」抜粋

滝のかかっている川の源流は、標高300m～400mの中位平坦面の世羅台地にある大和町平坂付近で、この小河川と沼田川との合流点から約200m上流の標高100mの位置にある。

この付近の沼田川両岸は河底から中位平坦面までの落差が300mもある深い谷(沼田川溪谷)を形成し両岸の平坦面から流れて沼田川に流入するところ、即ち合流点に急流や滝をつくっている。その代表が右岸の女王滝、左岸の瀑雪の滝である。沼田川は直線状に流れ、駒原から平坂の直線谷は船木断層に沿ったものと考えられる。



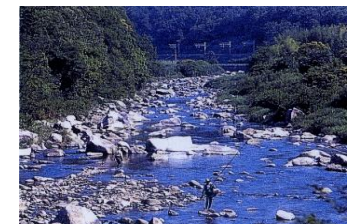
女王滝

平成9年・NHK大河ドラマ「毛利元就」



【想像図】

その昔、船木断層に沿って起きた地殻変動時の 右岸・女王滝 と 左岸・瀑雪の滝



船木峡

「安芸の嵐山」と賞賛されている

沼田川は船木断層に沿って流れたため、急速な下刻作用が進み、支流の谷は懸谷となり合流点に滝をつくったもので、最初にできた時の滝の位置は合流点、即ち川の出口にありその後、現在の位置まで後退したものと考えられる。

地質の面からみると、花崗岩を基盤岩としている。

他文献では、世羅台地のように中位平坦面の溪谷に有る滝は、花崗岩が多いとある。

【時代背景】昭和20年代頃までは、寺から滝迄の上り下りの山道は生活道として頻繁な利用があり、整備されていたと聞く。

現在では、生活様式の変化に伴い、生活道の必要性がなくなり未整備状態であった。風情と由緒のある古道を多世代で楽しめる山道として復活整備に取組んだ。2011年春竣工した「広島空港大橋」・「棲真寺公園」を結ぶコースとして愛されている。